

第 33 期東京都青少年問題協議会  
第 2 回専門部会

令和 5 年 2 月 27 日（月）

都庁第一本庁舎 34 階

34A 会議室

午後 1 時 05 分開会

○治安対策担当部長 皆様、こんにちは。定刻となりましたので、ただ今から第 33 期東京都青少年問題協議会第 2 回専門部会を開催いたします。

皆様方におかれましては、大変お忙しい中、御出席を賜りまして誠にありがとうございます。

本日、大滝委員が御欠席、山本委員はオンラインでの御出席となります。よろしく願います。

なお、本協議会は全て公開となっております。議事録につきましても同様の扱いとなりますので、御承知おきいただければと思います。

事前にメール等で配布させていただいた本日の資料について御確認をお願いいたします。まず、第 33 期東京都青少年問題協議会第 2 回専門部会次第でございます。次の資料 1 は、事務局の説明資料でございます。最後に、本期の青少年問題協議会専門部会の名簿ということになってございます。不足等ございましたら今の時点でお知らせいただければと存じます。よろしく願います。よろしいでしょうか。

それでは、以降の司会につきましては、本専門部会の部会長でございます土井委員に願います。よろしく願います。

○土井部会長 はい、よろしくお願いいたします。本日もお集まりいただきましてありがとうございます。

では、早速ですが、時間も限られておりますので、議事を進行していきたいと思えます。

本日は、まず、事務局の方から犯罪被害等のリスクを抱える青少年の実態等について御説明いただき、その後、今日、講師としてお越しいただきました「公益社団法人日本駆け込み寺」の玄様から御講演を承りたいと思っております。

では、まず事務局から説明をお願いします。

○都民安全課長 事務局の都民安全課長の櫻井です。今、お話がありました犯罪被害等のリスクを抱える青少年の実態につきまして、お手元の資料 1 を御覧になりながらお話をお聞きいただければと思います。よろしくお願いいたします。

前回、第 1 回の専門部会におきましては、複数の委員の皆様から、本専門部会での審議に当たっては、まずは「ト一横」の実態の把握が重要であるという御意見をいただきまし

た。そこで、第1回の総会でも御説明しましたが、「トー横」で関係する各行政機関は、既に各種取組を実施しており、その取組の中で青少年本人と接する機会も多数ありますことから、事務局では、改めてこうした関係機関に対してヒアリングを実施いたしました。そこで、私の方から当該ヒアリングの中で把握をできた「トー横」周辺の情勢や、そこに滞留する青少年の現状について御説明いたします。

なお、今回、関係行政機関として、東京都児童相談センター、警視庁、新宿区の3機関にそれぞれヒアリングをさせていただいておりますが、対象となる青少年が特定されてしまうこと等を防ぐため、具体的な説明の際には、どの機関から提供を受けた情報であるかなどにつきましては、伏せた形で御説明させていただきます。あらかじめ、この点、御了承いただきますようよろしくお願いいたします。

また、これからの説明については、あくまで関係行政機関において把握している情報を基にご説明するものでございます。「トー横」ないし、そこに滞留する青少年の実態の全体像を必ずしも正確に捉えているものではない可能性があるという点についても御承知おきいただけますと幸いです。

それでは、説明に入ります。まず、資料上部の「トー横」において確認されている事象というところでございます。こちらについては、前回の説明とも重複する部分がございますが、児童買春、飲酒、喫煙、オーバードーズやリストカット等といった自傷行為、こうしたものが関係行政機関の取扱いの中でも複数確認できているところがございます。これらの行為は同時になされることもあり、例えば、歌舞伎町シネシティ広場において、青少年と見られる者が嘔吐してぐったりしていたり、体調不良により緊急搬送されたりする事例も複数発生しておるということでございます。

その他、その下でございますが、暴行や窃盗、無銭飲食、違法薬物の所持等の犯罪行為、あるいは、特殊詐欺への関与行為、こういったものもあるということでございます。

今回、確認されたこれらの行為につきましては、資料の下側の※に記載しておりますが、あくまで現地での目視確認等、様々な確認方法により確認されていると、そういったものでございます。

続きまして、資料下段の青少年が「トー横」に来訪する背景等について御説明いたします。

青少年が「トー横」に来訪する背景、青少年が抱える悩み等につきましては、資料に記

載したようなものが把握できましたが、少し具体的に説明いたします。まず、家庭関係というところでございますが、自宅や学校での生活態度に関する指導等、様々な理由から家族との関係がうまくいっていないですとか、ネグレクト等の児童虐待を受けている、あるいは、家が貧しくてお小遣いをもらえていない、こういった言動に接しているところでもあります。

次に、学校関係でございますが、学校で友達とうまくいかず不登校になり、同じような境遇の人に会いたかった、学校の勉強についていけず不登校になったといった言動を把握しております。

その他、上記以外というところでございますが、家庭や学校以外での対人関係の悩みを抱える青少年もいるほか、刺激を求めて来訪した青少年や、興味本位、友人との付き合い、流れで来訪したという青少年も複数いるところがございます。

家庭や学校をはじめ、何らかの悩みを抱えている青少年の中では、同じような境遇にある人に会いに来た、「ト一横」は自分のことを否定せず認めてくれているといった言動が複数ありまして、各種報道で述べられているような「居場所」を求めているといった状況は少なからずあることが推測されるところでございます。

行政の取扱いの中には、同じ青少年を複数回取り扱う場合もありまして、また、勉強や門限等の親とのルールを守るから「ト一横」には行かせてほしいと主張する者もいるなど、実際に「ト一横」が居場所になっているというケースもございます。いずれにしましても、資料に記載のとおり、「ト一横」に滞留する青少年が抱える背景、悩みについては、様々なものがあるところでございます。

また、そうした青少年が抱える背景や悩みについては、単一の要因だけではなく、課題、あるいは家庭や社会の環境、教育場面での不適合等、複数の要因が絡み合っている場合も少なくないところでございます。

加えて、これらは、あくまでも関係行政機関における取扱いの中で今回把握できたもののみを列挙しているところでございまして、青少年の中には、行政に対する不信感を有しており、行政職員に対して話自体をしてくれないという場合も多くあるようでございます。

従いまして、実際には、ただ今説明したようなもの以上に様々な背景や悩み等を抱える青少年が「ト一横」に来訪しているものと推測されるところでございます。この点も申

し添えさせていただきます。

以上、駆け足ではございましたが、行政機関において把握をしている「ト一横」周辺の情勢、及び、そこに滞留する青少年の現状について御説明させていただきました。

事務局からは以上でございます。

○土井部会長 はい、ありがとうございます。今御説明いただきました内容につきまして、何か今の時点で御質問ありましたらお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

私から1点だけよろしいでしょうか。

○都民安全課長 はい、お願いいたします。

○土井部会長 今、列挙をしていただいたのですが、このボリュームゾーンがどの辺りなのかということは、感触はありますでしょうか。

○都民安全課長 それぞれの行為に関して具体的な件数まで聞き取れておりませんので、そういった感覚につきましてはお示しすることができないところでございます。

○土井部会長 はい、分かりました。ありがとうございます。

何か他に御質問等ありますか。よろしいですか。

では、続きまして、公益社団法人日本駆け込み寺の玄秀盛様から日本駆け込み寺の御活動の内容と、それから、歌舞伎町における青少年の現状等につきまして御講演をいただきたいと思えます。では、こちらにお越しいただきをお願いいたします。よろしく願いいたします。

○玄講師 こんにちは。玄と言います。歌舞伎町で2002年の5月から約21年間活動しています。歌舞伎町に広場があって、その裏に交番があって、そこに大久保病院があって、併設してハイジアというビルがあって、その前に大久保公園があります。そこに向かい合わせるように駆け込み寺を開設しています。そこで、どのような相談に乗っているかといいますと、DV、ストーカー、家出、自殺、出所者支援、最近でしたら借金、反社の相談等のあらゆる相談を受けております。これまで約5万件対応しています。この5万件というのは、2人1組のもあります。一人一人の相談に向き合い続けて今に至ります。設立当初は、24時間、365日、1年3カ月やっておりまして、以後ハーフタイムで、現在は基本的に午前10時から夜8時で相談を行っています。年末年始もやっていました。

そこで今回の議題についてですが、「ト一横」キッズ問題、青少年に特化した相談ということで、今回お話しさせていただきます。駆け込み寺のスタンスとしては、まず、コロナ

以前から歌舞伎町内でのごみ拾い掃除を月2～3回ペースで十何年やってきました。コロナが蔓延して、ソーシャルディスタンス等の様々な社会背景がある中約3年、ごみ拾いは控えていましたが、広場は絶えず見ていました。我々のところに、結構駆け込んでくる子どもたちもいるので、去年の4月頃から、徐々にコロナ禍が収束に向かった状況もあり、ごみ拾いを再開しました。そして、本格的に相談に乗り始めたのは、昨年8月です。ある西日本にお住いの御両親から、「子どもが広場にいるみたいだ。」「SNSの動画で子供をちらっと見たと、同級生から連絡があった。」「一度歌舞伎町に探しに行きたい。」と相談を受けました。マスクも付けているし、容姿も変わっているしで、なかなか難しかったのですが、昨年8月10日に、広場にごみ拾いを兼ねて、ちょっと動画を収録に行きましたが、その動画を見たら御両親はすぐに自分の娘だと分かりました。そうした相談をきっかけに、「ト一横」キッズ問題ということに、本格的に関わるようになりました。我々が広場でごみ拾いして、中へ入り出したら、喉が乾いた、お腹減ったと、いろいろ訴えてきました。そこで、それでは炊き出しをやろうとなりました。8月28日の日曜日に、第1回目の炊き出しを行いました。それから毎週行っています。金、土、3時から6時の3時間と、時間を決めまして。大体自分のところの定員、入れるのは大体15名～20名いうところなのですが、多い時には30～40名来ます。もう入り切らんほど来るな。それが夏場ですよ。冬場になってもやはりそういう子どもらがぞろぞろ、平日も来る。トイレ貸して、水ちょうだいから始まって、いろんな非常食を寄付でいただいていますから、彼らは非常食を持って帰って広場で食べる。そうやりつつ、またごみ拾いもしつつ、ティッシュも配ったら、顔なじみじゃないですけれども、そのようになって、彼らからいろんな相談が来た。その中で実態を見たら、あの広場で相談に乗ったのは、最少年齢12歳から、最長40歳ぐらいまでいます。その中で中高校生もおるなど。夏場辺りは結構いましたし、秋もいました。

冬場になって、若干寒くなったり、12月は特に取り締まりが厳しくなったりということで、あらゆるところのホテル、シェアハウス、ビルの谷間とか、地下の通路とかに散らばるようになった。ただ、金、土、私のところが炊き出ししているときはやっぱり来ます。SNSを通じて。携帯電波が切れている子は結構おったけど、Wi-Fiを使ってSNSでみんなつながっています。ツイッターについても、裏アカでみんなつながっています。そういうところで我々のことを聞いてくる。自分のことはいつも彼らは玄さんって言いますが、

「玄さん、この子危ない」と、北海道出身の13歳の子どもが来ました。これはいくら何でもちょっとやばいなということで、歌舞伎町交番に相談に行きました。

そうやって、子どもらが子どものことを言うようになって、ちょっと玄さん、こうや、ああだと、相談に来るようになりました。生理が止まったという子もいれば、パパ活で怖い目に遭った子、中にはリスカ、リストカットしている子もいます。オーバードーズの子も、しょっちゅうです。200錠ぐらい薬を持っていると。こうした諸問題を扱っていた中で、今日の、この犯罪被害者とリスクを抱える青少年の実態を見ましたが、なるほどなど。いろんな事象は書いているし、全くもってそのとおりと。青少年が「ト一横」に出てくる背景等も含めて様々ありますけれども、意外と肝心なことは、もう地方もネット社会ではつながっています。情報格差はほとんどありません。どこでも歌舞伎町は見られるじゃないけれど、地方の片田舎でも、ネットワークに関して、情報格差はほぼない。じゃ、この子らがなぜ「ト一横」に出てくるんやろう。リスカした、オーバードーズした彼らは、それぞれの地域で孤立している。孤立して、ネットでつながっている。そこで子どもらは何を求めてくるか、やっぱり、リアル、ぬくもり、人との出会いを求めてきます。そこで、去年は、散々報道等でいろんな部分で、良きにしろ悪きにしろじゃないけれども、ほとんど悪い部分ではダーティーな意味で、「ト一横」キッズ問題が噴出した。特に、どこでももうツイッター、裏アカのツイッターでは、まず「ト一横」キッズです。オーバードーズ、毒親とか、いろんなキーワードの中で必ず1回目出るのは「ト一横」キッズとなっていて、もうブランド化していて、青少年はそういうところで「ト一横」に流れ込んできます。

先週土曜日25日、自分も当然いて、うちが炊き出しやっている最中にも約25名の子どもたちが来ました。広場はほとんど今いません。彼らはあちこちに今たむろしています。ホテル、いわゆるシェアハウス等です。18歳になった子どもらのところに一緒に泊めてもらう。要するに、情報がいろいろあるからどこでも泊まれる。

その中で3日も泊まれば、ついに声がかかります。3日ただで泊めてんねやから何か頑張らないかと。そこからいわゆる売春が始まりますよね。そういうことはざらにあります。

それと、オーバードーズ、薬に関しては、結構、市販薬とか処方箋の薬について、偽名でいくらでも手に入ります。そういう手立ても分かっています、どこに行けばいいかも。

それをまた現場で売っている子もおるんですけれども、そん中で、ずっとたどっていけば、10代の子だけではなかなか生活ができない環境だと分かります。大体20代、30代前半の、はっきり言うたら男性なり大人が絡んでいます。そういう人らが手引きして、10代の子らが来ても歌舞伎町にいたらいかようにでも生活ができる環境になっています、働かなくても。

もうちょっとこちら側に来たら、大久保公園があります。私のところ、事務所のまん前です。そこは、皆さんもご存じかもしれませんが、失礼な言い方かもしれんけど、通称で言えば売春通りです。1日30人ぐらいが立っている。いろんところで自分らはアウトリーチで声掛けます。いわゆる時給1万5,000円のフリーランサーやと、フリーランスだと、彼らはいいます。なるほど。言いつつ、事務所を開けていたらトイレ貸して云々ときて、諸事情も聞きます。

今日はちょっと広場の方の「ト一横」キッズがテーマなので、もうちょっと奥深い大久保公園まではちょっと割愛します。ただ、結局はそこに流れつくというような、もうシステムも出来上がっているし、じゃ、こういう子らをどういうふうにキャッチしたらいいのか。そこで8月28日から子ども食堂、いわゆるミライ食堂と名付けて、まず彼らに食事を与えよう。そしたらちゃんと顔が見えてきます。食事を取る時の顔、マスクを外した時の顔、それぞれ素顔を出すようになる。最初は警戒します。でも、3回ぐらいからふらっと来ます、平日でも。お腹減った、寝るところない。服も1週間同じ、コインロッカーが開けへんから荷物置いている。やはりここから始まっていくと思うんですよね。第3の「居場所」と言いますが、やっぱりこちらは見ているが、干渉もせえへん。ちょっと距離を置きながら。ただ、駆け込み寺いうスタンスは意外と知れ渡っていますので、いざというときは、この子らが救いを求めてくるなり、声掛けする時についていうふうに、もう、結構、ネットワーク的には、たった半年ですけども、出来上がって、積み上がったなと。そういうところでいろんな話を、漏れ伝えるようにというか、聞いていますけども、また、そこはまた後で質問などありましたら。

今日は、しゃべりたいことが山ほどあるんですけど、キッズに特化して、特に、皆さんが知りたいこととか、こういうこととかいうのを、各自、質問いただける方がもっと鮮明に御理解できる、状況把握できるかなと思っていますので、質問をお待ちしています。こういう感じでいいかな。



○土井部会長 はい、ありがとうございました。では、せっかくですので、質問をお願いしたいと思います。どなたでも結構ですので。いかがでしょうか。

○小西委員 では、よろしいでしょうか。

○土井部会長 はい、お願いします。

○小西委員 ありがとうございます。まず、先ほどお話にあった12月に補導活動、街頭補導を積極的に行って、その後、散り散りになっているということで、ホテルやシェアハウスとか、あるいは地下道ですか、そういうところで誰か大人が関わって場所を提供したり、シェアハウスの形とかになつたりするかと思うんです。それに関し、何かその背景にいる大人というのですかね、青少年が散り散りになった後でも何かそれをつなぎとめている、あるいは、ある種つながりを持っているような大人の存在っていうのはあるのでしょうか。

○玄講師 はい、あります。去年の4月から18歳問題が浮上しました。18歳になり、急に大人やと。この子らが、それ未満の子どもをしっかり守ります。まず、18歳以上の子は部屋も借りられ、契約もできる。警察に職質にあっても「18歳です。」と言ったら、もう全然大丈夫です。家出とか特殊なことがある以外では。この子らは、18歳になる1年前は当然17歳でしたが、18歳を待ち焦がれていました。そして、この子らが後輩じゃないけれど、それ未満の者を助ける。すると、この子らは、先輩によって助けられた。いびつな関係ができて、働くところも18歳以上の子らが手当てします。だから、泊まる場所、いわゆる寝るところも、食事するところもやるけども、やり方としては、SNS、ネット、そういうツールを使います。携帯も持っていなかったら、ちょっと人のものを借りてでもツイッターでさっとやってログインして、やります。そのような世界観ができているから、意外とこの18歳がちょっとグレーな部分で。だから先日も来たら17歳の子があと4カ月で18やと。だから、玄さん、待ってんねんと。

ちょっとこれはリアル過ぎるかもしれんけど、先週25日でしたけども、ちょっとおまえ、お腹大きいちゃうの言うたら、生理2回止まってんねんと。大変なことやなと。毎週来るので、ちょっと今チェックしてますけども。

このような感じで、仮に補導されて兎相に逃げる、兎相でこうやってちゃんと乗り越えて出てきたと。8月なんかは6回ぐらい兎相に捕まっても7回目に出てくるというのが現状でして、意外と子どもたちの方が知識、知恵といますか、まず寝るところ、食べると

こ、稼ぐことも、ちゃんと構築されているということですね。

○小西委員 その稼ぐところっていうのは、それは結局、風俗とか、そういうところなんですか。

○玄講師 風俗よりも、まず売春ですよ。まず売春から始まって、万引き、あそこには24時間営業のお店がありますから。それと、手っ取り早いのが売春と。ざらにあります。もうほとんどそういうところに、同年代の子があっせんするというようなものもあります。

○小西委員 先ほど触れられていた、いわゆる大久保公園の横の、そういうふうなところでの売春にも関わるなどすることはありますか。

○玄講師 はい、あります。その間にもう1個あります。稼いだお金で、いわゆるメンチカやコンセプトカフェとか、ちょっとホスト的なところにも出入りしますよね。楽しくて仕方ないんやろうけど。

○小西委員 ありがとうございます。

○土井部会長 はい、ありがとうございます。他いかがでしょうか。

○田村委員 ちょっとよろしいでしょうか。

○玄講師 はい。

○田村委員 初歩的な質問をお願いします。今、お話しいただいた、寝る、食べる、稼ぐというようなそこに集まる青少年については、ずっとそこに居つく、あるいは、暮らしてしまう子たち、それから、例えば「ト一横」の情報を見て、ちょっと来て、どんなところかなと見て、そんなにははまらない子たち、また、ちょっと来て、2～3日あるいは1週間いる子たちといったように、何か層があるような感じがするのですが、ちょっとその辺、感触教えていただけますでしょうか。

○玄講師 全くそのとおりです。近隣から来る、遊びに来る子も含め、家出した子というのは、もう当然、遠くから来ますよね。東北や関西からも来ます、こちらは本格的な家出です。でもある程度広場で滞在しても、大体3～4カ月でどんどん人が変わっていきます。

じゃ、3～4カ月でどうやって変わっていくのかというたら、新宿界限は家賃が高いからちょっと23区のぎりぎりのもっと低家賃のところに2人、3人でまず住み、もうちょっとしたら男性のところに一緒に住む。そして、男性については18～19で働く方にどんどん吸収されていきます。職業で挙げたらちょっと言いにくいので、夜の商売している方に吸い上げられる。そこに一緒に同居するっていう感じなんかも出てきますよ。あの子、

たまに見いひんなと思うたら、今どこぞに住んでるっていう情報も入ります。だから、今の3パターン、そのまま当てはまります。特に顕著なのは、この夏時分なんですけど、どんどん歌舞伎町に来るのが抵抗なくなっているんですね。ストレートに言ったら、その背景には大久保通りがあります。まず、韓流ブームじゃないけど、韓国人街の安いフードがあって、ふっところ来たら、これが歌舞伎町よっていう流れです。つつじ通りからずっと入ってきて、ここが歌舞伎町よと言いながら親子で会話しているのを見とります。それでふっと見たら、その子がおるなど。彼らも何か抵抗感がなくなってくる。毎日毎日「ト一横」キッズ問題、ある意味すごいダーティーな負のスパイラル、メディアで取り上げられれば上がるほど、男性群が来るように女性の子どもらも、要するに来るようになっていくと。

毎日、当然そこで見ている中で、歯がゆい部分もあるねんけど、私どもはとにかく駆け込み寺として、食堂をしながら一つ一つを積み上げていくっていうのをやっています。

最近、半グレとか、非行系が出入りするようになっていくから、ちょっとこれは厳しいなと思っています。車でずっと走り回っている人もずっと見ます。男3人が乗ってんねやけどね。だけど、自分らはそういうのをチェックしてます。酔って倒れている子なんかパッと声掛けてる子もおるから、そういう時は分かる範囲はみんな助けるんやけども。結構、犯罪的なものが根深くひそんでいる。今、広場の表の部分にあまり人影がない分、隠れている部分ありますよね。たまにそういう子らが、ふっと逃げ込んできますから、それで、どこにおったか分かるという状況があります。

○田村委員　もう1点。

○玄講師　はい、いいです。

○田村委員　その3層あったとして、「ト一横」に来て、少し滞在しても、しなくても、元の日常に戻っていく方たちが感触的にどのぐらいなのか。また、その違いについて、すなわち、そのまま残ってしまう子と、戻る子と、何か接していて双方に何か感覚の違いがあったら教えていただきたいです。

○玄講師　新宿に遊びに来た、以前に映画館で来たとか、そういうふうに来た子らは歌舞伎町を覗いても別に何ら抵抗ないです。ただ、地方言うたらいやらしいんですが、地方言うても、埼玉県の奥もあれば千葉県奥もあるけども、あえて「ト一横」を目指してくる子は、まず、その地域に友人がいない、孤立がもう始まっている。まず不登校、オーバード

ーズ、リスカ。背景を言ったら、親がシングルマザー、親が彼氏できたから家に居づらくなった。その間に学業が転校によって追い付けへん、塾にも行けないから先が見えないっていうふうに、不登校になった子どもはずっと暇ですから SNS で追い掛けてったら、「ト一横」に行けば居場所がある、「ト一横」に行けば助けられると気が付く。それで、「ト一横」を目指して来ます。自分たちは、それを見た瞬間、何か「ト一横」じゃなく、歌舞伎町じゃなくていい部分も見たりするけど、今、深夜バス、夜行バスがあって、長距離バスがあるからすごく安価に来られます。もう晩に乗ったら朝に着いている。片道切符で。親はって言うたら、LINE でつながっている友達を見つけて、いや、そんなところにいたのとなる。なら帰してくださいと、迎えにも来ない。キッズは言います、だから、玄さん、言ったでしょ、来ないよと。「居場所」がないからここが私たちの「居場所」ってことです。だから、居つくというのは、やっぱり家庭環境もあるし、地域の問題もある。逆に、帰る子はっていうのは、やっぱりこういうふうに新宿を知ってるじゃないけど、例えば横浜やったら知ってるとか、ちょっと都市部の子は、いつでも行ける距離感があるから、たまに覗きに来た言う程度でやっぱりちゃんと帰ったりする。夜はもう8時が門限やからって帰っている子もいます。それが混在しています。でも、赤裸々に分かるのは、やっぱり服装ですよ。荷物を三つも四つも持っている子とか、キャリー引いている子、あからさまに分かります。遊びに来た子は軽装で、ちょっと身ぎれいやし、遊びに来たっていうのが分かります。そこで情報交換したりもしています、現実。新宿に遊びに来てるんやからこういうのを見たってというような情報ですよ。

- 田村委員 居つこうと思って、来ているってということですかね。ある程度覚悟して。
- 玄講師 覚悟っていうか。
- 田村委員 覚悟っていうか。
- 玄講師 もうそこには。
- 田村委員 居場所を求めてっていうか。
- 玄講師 うん、私の存在がないから、ここにこそある。広場に来たら、すぐみんなハグしますよね。いかにも、久しぶりじゃないけど、初対面でも、ツイッターでずっとつながってるからやっとなら来たって感じで。ただ、そこであまりにも年齢が低い場合は、やばいですよ。うちんどこ来るのはまだセーフなんですけども、男性が歓楽街で群がってますから意外とあっという間に、一瞬で吸い上げる場合もありますよね。

今でこそ、もう皆さんご存じのように、もう歌舞伎町タワー建ったらだんだん広場はなくなるって言うてるけど、いやいやまだまだ。それを表上、騒がんなったとこで顕在化はしてます。もう「ト一横」はフレーズになってるから、そこまで行けば。だから、あの近くの待ち合わせ場所、皆あります。

○田村委員 はい、ありがとうございます。

○土井部会長 多分、田村さんが今お知りになりたいのは、何というか、量的な割合、どんな感じかなっていうことだと思うのですが、要するに、放っておいても安心できる子と、それから、今話題になってる子がどのぐらいの割合でしょうか。

○玄講師 四分六ぐらい違うかな。四ぐらいは大丈夫やろうけど。

○土井部会長 危ないほうが多いってことですか。

○玄講師 圧倒的に多いです。

○土井部会長 多いのですか。

○玄講師 安心にしとっても引っかかっちゃうんですよね。大丈夫やろう思うととっても引っかかるんですよ。みんな優しいから。

○田村委員 声が嬉しいでしょうしね。優しく上手に寄ってくるのですね。

○玄講師 そうです。

○田村委員 ありがとうございます。

○土井部会長 ありがとうございます。他はいかがでしょうか。では、よろしいですか。

○玄講師 全く。

○土井部会長 先ほど、事務局から配られた資料1の中を御覧になって、まず、上の確認されている事象で、重なっていると思いますけども、一番、玄さんから見て目立つというか、ボリュームゾーンだなと思われるのは、どの事象ですか。

○玄講師 オーバードーズです。

○土井部会長 オーバードーズですか、ああ、そうですか。

○玄講師 ほとんどオーバードーズ系が多いですね。みんな多幸福感を味わう、忘れたい、オーバードーズ、20、30錠飲んで、そこでみんな時間、測るんですよ、飲んだ時に。パキるって言うんですけど、どの辺でパキるかいう時間測って、個々によって違うから。10錠飲んでパキった子言うたら、あと10錠飲む。これとこれと組み合わせて飲めばいいよと。ネットで調べたらそういうの全部出てきますから、そういう文言もしかりで。だか

ら、すごい学習能力は高いなと思いますよね。オーバードーズが圧倒的に多い。それから、リスカですよね。あと、ほとんど喫煙です。飲酒に対しては、それぞれ人によって違うけど、当然、児童買春はもう付き物ですよね。買うしっかりした大人がおるから。

○土井部会長 今回のタイトルになっている「犯罪被害等のリスク」というのを考えると、児童買春等が最初に出てくるかと思うのですが、こちらよりは、やはりオーバードーズとかリストカットのほうがボリュームが大きいのでしょうか。

○玄講師 そこが入り口ですよね。そこから入り口で、それを稼ぐために売春に走ると。当然、喫煙も付いて回ります。オーバードーズはって、広場に来て覚えるんじゃないんですよね。もう「ト一横」に来る前から、地元で結構やってますよね。そこでリアルさを求めて、友達を求めてっていう部分でこういうところに流れてくる。

○土井部会長 そこで友達ができ、しかもオーバードーズでお金がかかるから、そこで売春まで行くっていう、そういう流れですよね。

○玄講師 そうです。

○土井部会長 最初から、買春を求めて来ているわけではないですよね。

○玄講師 自分らのデータでは、ほぼ少ないですね。

○土井部会長 少ないですかね。ありがとうございます。

それから、資料下側の背景の中で、ざっとご覧になって、これが目立つなって感じるものはありますか。

○玄講師 家族との不和やね。

○土井部会長 家族の不和。

○玄講師 大体、ほとんど来たら、毒親とか、親が嫌でこの先見えへんと。親とはもう当然コミュニケーションは図られんから来たというのが一番ですよね。それ以外に、例えば、虐待、貧困やねんって言っても、広場では同情は買わない。その親からよくぞ逃げてきたというパターンが多いですね。貧困って言うても、まず家族との不和です。親から「出せるのはここまでやから」と言われ、「大学行くのも奨学金もらえ」と言われている。ある意味貧困もありますよね、教育的な。

それまでも塾に行けなかったから、学力が追い付かない。親は何も理解できないからって、そんな説明するまでもなく、親というのはもうコミュニケーションが取れない。だから、結局は、そこから始まっているから、家の中で笑い声が聞こえるならいいけども、

それすらないから全ての原因がそっちに行き着く。背景を聞いたら、まず転校生であるということとか、学力なんか当然追い付かないという部分とか、親が再婚したから、だから自分自身に愛情が注がれへんとか、言い出したら多感な時期にそういう部分の背景は見えてくる。と同時に、オーバードーズで薬物の過剰摂取が始まっている。なぜ、オーバードーズになるかっていう背景を見た時に、逃げたい、多幸感味わいたい。その間にリスカする。最近はリスカしても、こんだけ切ったんよという動画、静止画配信しますよね、こんだけ切った。ほんで、僕は25本切ったでっていう、何か比べっこしてる部分があります。血の流れを見てるとかいっぱいそういうのを見てますけども。カミソリじゃ駄目、カッターでとかね。やっぱりそういうようなこともどんどん情報として上がってきているから、本当にどういんですか、自殺とか、あんなんでリスカっていうんじゃない、何か見せるリスカっていうんですか、が多いですよ。当然、学校関係は友人がいないが一番で、当然、いじめ、学習面の悩みも当然あります。そこに当然、不登校、引きこもりもあります。都会に憧れているのも聞くからね。

○土井部会長 やっぱりありますか？

○玄講師 ええ、歓楽街ですから、大人が皆、無関心やと。地方にいればガミガミ回りがうるさい。誰がなしに注意すると、夜は歩いていても。見事に新宿言うたら失礼ですけど、自分はどうしても歌舞伎町におるもんやから、ここに来たら誰も注意はしない、無関心、もっと言えばやりたい放題しても何も言わないと。すぐそこに歌舞伎町交番があります言うとっても、全然何とも思えへんっていう。ト一横キッズが特に増えた部分というのは、コロナ禍によってのこの3年間、誰もがソーシャルディスタンスとか、三密回避のためのアクションから、「ト一横」の子は一切マスクしない。大人も近づけへんいう、こういう空白地帯でこの3年キッズが培養されたと思うんです。それが去年、頂点に達しましたよね。ボランティア団体の代表が逮捕され、その後亡くなったということによって気が付いたわけですよ。そこにはいろんな残党がおるとか、言い出したら切りないんやけども、そこにいろんな犯罪集団的なのも来て、それが混在しだして、逆に今は沈静化している。けど見えへん、見えなくなっただけでフレーズ的には残っています。

○土井部会長 そうすると、やっぱり地元でのしがらみが嫌で、そこから逃れて、自由を求めてっていう方も結構いらしている。

○玄講師 もう帰れないですよ。地元には帰る場所もないし、帰れない。なぜかここまで

来てしまった。やっぱり、本人分かっているんですよ。体、傷つけることもしかり、もう異性関係もしかり、オーバードーズから抜けられないとか。もうどんどん本人自身がもう自覚しているから、戻れないからやるだけやるじゃないけど、開き直りじゃないけど、いってもいいやろと。24時間のディスカウントストア、歌舞伎町には2カ所あるから、平気でそこで最初は万引き、いわゆる窃盗ですよ。取ってこいって言われるから取ってきたと。見事にそれをすり抜けたら、何かそこからどんどんはまっていくというパターンもありますよね。学習していくいうんですか。

○春野委員 いいですか、質問。

○玄講師 はい。

○春野委員 すいません、先ほど、年齢の問題も出てきて、キッズってということなので、未成年ってということが議題かもしれないのですが、先ほど18歳になるとっていう話がありました。私は親の会で、もうあと何カ月で18歳だから、そしたら家出するとかね、そういう相談も受けています。先ほど、18歳以上の子が、ある種先輩みたいになってそれより下の子供を世話しているという関係があるという話がありましたが、そうすると、世話をする18歳以上の人がいなくなると、若い子たちってというのは動けないのですか。そのような感覚ではないですか。

○玄講師 ビジネスホテルって言うたらきれいですけども、歌舞伎町ですから一時的なホテルがありますよね、ラブホテルって。あそこって6人ぐらいでも泊まれるんですよ、何人でもいいから。そういうところにたむろするんです。1カ月でも泊まってる子いますよね。ビジネスホテルも含め。要するに、あのホテルはフロントを通らずに済むとか、いろんな部分でその子らはそういう知恵が働くから、そういうとこ泊まるし、他人名義でシェアハウスいう格好でどんどん泊まります。そういうネットワークができてる。そこに、18歳とか、大人たちがまたつながると。最近でこそ規制が強くなったから、いわゆる漫画喫茶とか、ああいうのは身分照会と身分証明が要るからいうて、どんどん抜け穴的じゃないけど、そうした状況も生まれてると。泊まるのには不自由はないと。まして、若干、緩やかになってんのは、こうやって「ト一横」キッズじゃないけど、子どもたちが「居場所」がない言うたら泊めさしてくれる大人もいると。そういう情報、背景をよく知ってます。

ただ、18歳いうギリギリのラインやから、じゃ、その子が19、20歳っていう子もいま



すから、当然ながら。「ト一横」にいた子ですよね。しばらくして帰ってきた子も含めて。ただ、今回は確かに未成年っていう縛りですけども、本来でしたら、ジャンルの言うたら、もう20代後半、30代前半までいます。この人らがこの子どもたちから、はっきり言うて搾取しているとか、いろんな部分がありますよね。だから、特に今は広場がああいうふうに静かになってるところからしたら、子どもたちだけでは生活は成り立ちにくいけど、ただ、ネットの社会でパパ活とかね、そういうような裏アカウントで、堂々とマスクで営業トーク、営業してる子がおるから、やっぱりそこで確かに引っかかりますよね。

○土井部会長　せっかく歌舞伎町にいらっしゃるので、今のちょっと関連でお伺いしたいのですが、逆に加害者になってしまうような、18歳未満の者だけではなくて、例えば20代、30代の者が、多くは男性かもしれませんが、いるわけですよね。そういう人たちとも恐らく交流はあるかと思うのですが、どういう属性の人たち、属性っていうのは言葉悪いけど、どんな経歴、生い立ちを背負った人たちが、そのような加害者になってしまうのかというのはわかりますか。

○玄講師　はい、まず、風俗関係で働いている人。客引き行為も、要するに、あっせんに長けた人。当然、売春言うたら失礼な言い方やけど、パパ活を援助してるとか、それらを商売としてる人たちですよ、あっせん料取る。だから、最初に女性を使って、優しく泊まる場所あるよってささやきながら年齢を聞きつつ、そこはそこで友達感覚で、危なかったらそこで泊まる。そこでちょっと働くいうたら何があるっていった時に身分照会なく何もなくて言ったら、まず、いわゆるパパ活的な仕事ですよ。年齢が低いほど単価は上がっていくから、またそこに買う大人もおるわけです。大体、そこまで出す金額というのは、もう一般の方は買えないから、それなりのいわゆる出張族ですよ。自分らは、もう実態を分かってるんやけども、そういう人らはやっぱり来てますよ。40代前後は買いますよね、10代前半の子を。それをあっせんしてる子は、そこに親父狩りみたいのもおれば、脅迫まがいもあります。50万取ったとか。

この人らが被害者やのに加害者になっていくっていう。聞いてたら鳥肌が立つんやけども、実態を見た時に、ストレートにあかんやろうと自分らは言いますが、いかんともし難いいうところもあります。背景にはそういう方々がおりますから。

夜の歓楽街ですから、風俗、ホストとかね、遊びに行ってみたりとか、そういうのでまたお金が要ると。

○土井部会長　今お話のあった、あっせんをやったり、仲介をやったりする男性の中でも駆け込み寺に相談に来る人っていうのはいますか。

○玄講師　ええ、行為が終わった後に来ますよね、この子危ないから、朝になって連れてくる。その時は、こちらから別に何か問うんじゃなく、話を聞いて、それこそ家出してきたと。その時は動いたりするけども、いいとか悪いとか言う前に、うちは毎日日々事実面に直面しながら対応していく。どっかでそういう男性も来て、ここ行ったら何か自首するみたいだっと思われるのも嫌やから、うちは中立的に見てるけども、ただ、行き過ぎた行為があったら、正義を求めるじゃないけど、たまにはしゃべったりします。でも、逆に、いや、実はこの子っていう感じで言うたら分かるから朝方連れてくるから、その子を保護する。それ以上、深みにはまらんように。やっぱり、後悔していれば聞きます。その一晚何もなければよかったと。でも、買うほうが悪いって言い出したら、ほら、こういう性格やから、もう二度とそういうことせえへんようにしてくださいよって。正義感じゃないけど、それでもう女の子をキャッチして何もなかったと、そうか、よかったということで、親元に帰した例も何人かいました。

○土井部会長　そのキャッチする側の男性が自分の悩みで相談に来るということがありますか。

○玄講師　ありますよね。特に、今、性病がはやっていますから。ちょっと玄さんっていう感じで、ちょっと発疹が出たと。結構いますから、いや、すぐ、うち来る前に病院行ってください言う。いや、妻に何て言えばいいですか、と。そういう以前に、取りあえず病院行ってから考えてくださいと言います。相談に行けないですよ、そういう方々は。皆、思いがあるから。そういう相談も来ますし、いろんな方々が駆け込むというスタンスですから、別に何かを、正義を何とかじゃなくふらっと感がありますよね。子どもさんを探される御両親も来れば、逆に子どもからもう帰りたいんやけどっていうのもたまにあります。疲れたとかね。だから、自分がいつも思うのは、こういう歓楽街に、こういう第3の「居場所」がない。維持も大変ですけども、たった一人を救うのが日本駆け込み寺の命題です。来る者拒まず、去る者追わずのスタンスで淡々とやっているからこそふっと来る。

特に、コロナ禍になって、歓楽街を出入りする年齢がどんどん若年層になってきて、中高年は本当に飲食であんまり来ないですよ。圧倒的に若者が主流になってきました。そ

の中で、今、混在している部分があるから。

- 土井部会長 はい、ありがとうございます。他、いかがでしょうか。はい、お願いします。
- 金子委員 すごく聞いていても苦しいなと思うのが、まさに、18歳になって、今度は泊める側に回る子どもたち、あるいは、あっせんする側に回ってしまう子供がいること。この前まで17歳だったけれども、今は泊めて、しかも、売買春のあっせんをして自分も行っているし、ある意味、もしかしたらその女の子を助けている気持ちにさえなっているかもしれない子たち。この子たちもある意味加害者で、その問題行動を助長させている人たちなので、本当は、彼らにそれを全部やめなさいと言ってしまえたならば、それはそれで、いいかもしれない。でも、それをやめてと言って全部やめてしまったら、逆に、そのおかげでギリギリのラインで最後に生きていられる子どもたちは、もう死ぬしかないっていう最悪のところに行ってしまうかもしれない。

では、どうしようというところですよ。あっせんはやめさせたいし、そんな人と付き合うなというメッセージも出したいけれども、それが最後の拠り所である場合にはどうしてあげたらいいのか。しかも、家にはもう帰れない子どもたち、それはもう両方が恐らく帰れないっていうときに、では、一体何ができるのかっていうすごく大きな話にはなってしまうのですが、せめてどんなメッセージ、あるいはどんな情報を届けてあげたら、自ら、そこから脱しよう、あるいは、もうこれはやめて別の普通の日雇いの仕事に就こうと思ってくれるのでしょうか。この仕事あるよといったような、何か、そういう役に立つとか、彼らの行動を変えるチャンスになるようなメッセージというのはいり得るのかというのが質問の一つ目です。

また、逆に、まだギリギリ生きていける世界で、どうにか今踏ん張って生きているところで、そこを踏み越えて、本当の犯罪の世界に行ってしまう瞬間ってやっぱりあると思います。そうすると、その後はもう見えなくなってしまうって、それこそ人身売買の世界等になってしまうと思うのですが、最後、そこへ行くときの手前で、さすがに止めなければならぬという、もしかしたらどこかラインがあるのかもしれないと思います。これまでも何か御経験された中で、途中まではひたすら寄り添うけれども、これはさすがにまじいという何かサインとか、これ以上行ったら本当にもう帰ってこられないというそうしたサインがあれば教えていただけますでしょうか。

- 玄講師 子どもたちの方が大人かもしれん。感受性が強くて、好奇心があって、まだまだ

明日ある世界って思う。でもここまで来たら明日はない子らばかりがどんどん湧いてきてる。20年前当時、何かないかっていうところで始めたのが食事提供。こっから見えてくるものがあるやろうと、そこからがはっきり言うたらスタートなんです。そこがゴールじゃないんです。そこからスタートすることによって、マスクを外す、みんな行儀いいんですよ。いただきますも言う。ありがとうを言う、おかわりもする。あったかいご飯に飢えてるの丸分かりなんです。意外と豚汁は喜ばれるなど。普通、みそ汁なんか飲まへんやろと思ったら、逆にファストフードとかカップヌードルはもう要らんと。豚汁とかあったかいご飯食べて、2杯食べていく子もおる。やっぱりこういうことから始まっていくから、何人かは自分らは自立に向けて相談もしました。そん中で、見てくれ23やけど、どう見てもこれは17やなあという子もおる。一概に年齢じゃボーダーラインは引かれへん。要するに、23でも17みたいな子もおるし、17やけど大人びてそこには近づけへん子もおる。だからそんな区切りじゃなく、広場に出入りしている子らを全て、とにかく食べにおいでよから始めてます。

最初は、最少年齢は13歳、上は四十何ぼのちょっと世間で言うはぐれっぽい兄ちゃんも食べに来ました。うちはもう一切こだわりなくしてます。なぜか、全部つながってるんです。全部見事につながってます。そういう背景が分かるから、じゃ、元から抑えろうんぬん言う前に、まず、はっきりうちに対する信頼感と、ここ来たら何とかやっていける。まして、うちの場合は無料です、一切合切無料やから、いつでもおいでよと。来ない限りは助けようもない。

アウトリーチで野外に出てって、それぞれ声掛けもやってます。それよりも本人自らが食べに来た時は、もうここから脱出したい、こっからやめたい。ある子は、知り合いの沖縄県の方にリゾートバイトじゃないけど、うちネットワークがあるから、そこで頑張ってる子もいます。自立した子もいます。ちゃんと職に就いた子もいます。ただ、年齢が18まではちょっと家、帰っとけよと帰してる子もいます。でも、帰っても、結局、親からのけ者にされて、「玄さん」なんて、たまにLINEも来ます。18にならな、俺かて仕事世話でけへんからと、はっきり言います。頑張ってる子もいます。数え上げたら切りがないけど、たった一人一人にやっぱり寄り添っていかなあかんし、本人が自立を目指さない限りは、うちは他人です。他人ができる限界もあります、法律的にも。現に、そういう子らを泊めたら法律を抵触します。だから、昨年から週末24時間もやりました。実際や

ったら、夜中の3時に女子高生が尋ねてきたと、熱が出て。困ったもんやわね。コロナかインフルか分からへんと。救急車呼んだら消防隊3人来て、検温した。じゃ、救急車乗るかって言ったらこの子は乗らないんです。なぜなら、分かりますよね、身分照会が始まるから。乗らないんです。分かってるから。これは朝の3時、深夜の3時です。事務所で用意した抗原検査キットで陰性だったので、2時間ほど休憩させて、お姉さんか知らんけど連絡取って明日5時に帰ると約束させた。ちょっと首都圏でした。こういうような状況もあるんです。にっちもさっちもいかぬ子もおると。だから、うちは、1月までは金、土、48時間やりましたけども、さすがにこれはちょっと全てがしんどいから言うて、2月からはやむなく夜8時までになりました。ここから脱出って言っても、13時から、15時からというのは自分たちの考えやけど、この子らはしっかりしたものを持ってます、意外と。確かに、文字を書かせば、もう何か難解、不明な字を書きます。要するに、全然勉強してないから。でも、こんな子らでも一つの希望を持ったら、こんな大人でも認めるじゃないけど、うちがあって、うちがうちがと言うんじゃないけど、こういう「居場所」があったら帰せる。そこで親には通訳します。実は、こういう勢いで出てきたけども、漫画喫茶に寝とって何とかやけども、うちにたどり着いたから言う。そうすると、親はうちの言葉を信じて、ああ、どうもありがとうございます、っていうふうになる。ちょっと化粧してあげたら帰れるんです。こういうこともやらないと、失礼な言い方、法律に照らす、合わせる、行政に合わすうんぬんじゃなく、まず人として、人間として、この子をどうやって救うか。いろんな部分で見た時に距離感が大事なんですよね。その距離感が出てくるんです。灯台守じゃないけど、歌舞伎町でうちは看板上げてずっとやって、月曜から土曜まではごみ拾いもしつつ、目立つのぼりを立ててます。彼らは密かに見えます。金、土を楽しみに来ます。駄目な時は月曜日にカップヌードル、乾パンちょうだい言う子もいます。落ちていくところのはまぎに見るけど、そういう時には情はかけない。本人も闘ってるからって言うことがスタートなんです。まだ、半年間、少しでも、そこは見ました。解決の方法もあります。ありますたった一つ。でも、言ったじゃないけど、やる限りはちょっとそこに目を向けたらいい。

都民ではないんです、区民でも都民でもないんですよね。でも、日本国民やから、北海道から来ようが、何だろうが、自分たちの行政の壁も、所轄の壁も破ってでもやります。ちょっとあまり言葉が過ぎるかもしれんけども、つつい熱くなったら、このままじゃ、

今日はいいチャンスをいただいたなと思っていろいろしゃべらせてもらって、だいぶ相当言葉を選んでしゃべってるつもりなんです。つついちちょっと困難な、耳痛いことを言いますけども、ぜひ本音、本気、正味でよろしくお願いします。

○土井部会長　今おっしゃった解決の方法ありますとおっしゃった。それは何かお伺いしていいですか。

○玄講師　言います。もう待ってたような答えなんですよね。駆け込み寺がやった、そこで20年、要するに、ここの半分ぐらいのスペースで20年取りあえず座らせてご飯食べてるけども、ストレートに言ったら、忌憚なく言いますが、毎日通って、毎日ハイジア前を通ります。自分は歌舞伎町に20年住んでますから、ああ、この場所があればなど。広場があんなふうに閉鎖されます。閉鎖されたら排除とか、逆に保護、補導するんじゃなく、逆にそういう広場があればと。ハイジアの中に以前、ヤマノさんがやってたキャンプ用品とか売ってるところが丸々とあるねんけど、こんなところが一つがあればなど。いろんな方々が声を出すけども、じゃ、金を出すんやったら、俺、口出してほしいと、手も出してほしいと。うちの単体だけじゃ賄い切れへんいろんな問題が起こります。お金だけじゃないんです。お金で雇うんじゃないんです。例えば、出す人が、手も借りて、知恵も出してやったら、うちは単なる世の中に管理人的な感じで駆け込み寺いうソフトでやっていきますから、そこには行政の方、弁護士の方、元警察の方、NPOの方、それぞれ保健所の方がそれぞれやって、一緒に配膳してほしいんです、ご飯でも作って。そういう心のこもったことをしたら必ず彼らは来ます。うちが実際、どっから湧いてくると思うぐらい土曜日25人で来てアップアップだったんです。呼吸困難になるぐらい。それこそ三密回避じゃなく。それでもおかわりで、うちもご飯2升炊きます。ご飯が追い付けへんぐらいっていうのが、もう現実起こってるんです。だから、場があればいいんです。場所的に。1階の路面店で、そう遠くはないところで。まして、広場の近くで。そしたら場所はそこしかないって勝手な思いですけど、あんだけ余ってる場があったら活用させてください。そしたらね、来るんですよね。皆、分かってますから、場所を。ここ来たら親元に連れ戻されるのか、みんな分かってます。見てくれは確かに10代で喫煙しますよ。うちら、たばこは吸うな、アルコールは外。それさえやっといったら、まあみんな入ってきますよね。たばこ吸うてくるわ言うて、前の公園の喫煙所で吸ってますけども、それがいかなものか言い出したら切りがない。正義よりもどうやって救うかを根源に置いたら、ま

あまあ片目だけ見てっていう、まあまあなかなか理解し難いけども。

○土井部会長 本当は、だから常設がいいと思うのですが、例えば炊き出しみたいな一過性のものでも効果はあるとお考えですか。

○玄講師 いや、あんまりないね。

○土井部会長 ない。

○玄講師 「居場所」がないから。

○土井部会長 「居場所」がない。

○玄講師 炊き出し、炊き出しって変な意味じゃないんですよ。与えるだけじゃないんです。与えた次のことをやらないと。与えて、この子ら、次が欲しいんですよ。構ってほしいんですね。結構しゃべりますよ、それぞれ報告も来るし、玄さん、実は言うて、LINE 交換してるから絶えずどうなったとかね。まあ、この子らはようしゃべるなど思うぐらい、来るんですよ。子ども連れも来ますし、妊婦も来ます。10代ですけどね。どうすんねんっていう相談も来ますよね、いろんなね。出産費用がないっていう相談も来れば。

でも、そこで食べて、安心やから、2回、3回来たらっていうの、向こうはじっと見えます。この大人はどこまで本気やなんやとか、何か見えますよ。うち、土曜日はたまたまボランティアの方も30人ほど来てて、2班に分かれて、うちのごみ拾いやってるもんやから、もうそういう方々と会話を交わす。彼らはなかなか大人と会話することない。だって怒るか、おせっかいか、しちゃ駄目よっていう、要するに無責任やと。私とこぼっかり出して、ちょっと語弊が出る、私、自分らも言う限りはきちっとやりますっていうスタンスがもう半年以上いうんですか。こういう信頼関係言うたら失礼やけども。なかなか歓楽街でああいうとこ、場所を見つけるって、まず家賃が高いです。金出したら人は来ますけども心はない。私どもも相当失敗しましたから。だから、今はボランティアの有志ってぬくもりがあります。たった3時間の思いが強いから来ます。実証しましたから。誰も多分やってないことをやったから、今日は満を持して、あまりここまでの話は、今日は、普通でやろうと。やっぱり熱くなったら、止める気はないんやけど、やっぱり本気、本当にやってるもんやから、うちの単体でやるいう最近は限界じゃないけど、ちょっと自分があまり体調良くないので、一層のこと先頭切らなあかんと思うことで、今日はいい機会をいただきました。たった1人でもいいから知ってもらおうっていうか、理解ができて、こうやって今日ね、いろんな方と会話ができることは、うちにとっては千載一遇の究極の

救いの一言ですから、ぜひとも生かしてください。

○土井部会長　そうすると、今一番の彼ら、彼女たちが求めているものって、必要なものはやっぱり場所ということですか。

○玄講師　場所とぬくもりです。必ずこの子ら反省してんねん。やばかったって。この間、コンビニに広場の自転車で突っ込んだ子もうちによう食事に来ましたよ。意外とうちの前では素直やったのに、ああっていきかって思った。何でこう違うんやろうってね、うちにいた時みんな素直でいはるのにな、とか思ったりしますよね。

今は、最近、特に半グレ的なとか違法薬物、MDMAとか売ってる人もいますし、現認もしましたけども、いよいよ危険。まだ表面で広場に出てる間はいいけれども、出てない子らにとっていよいよっていう、ちょっと危ない面も見てるなというのが実情的にあります。

たまに持ってきますよ。玄さん、これ何って。それは違かったけども。何か怪し気なもの持ってくる人もいます。います言うたら失礼。今日は、ある意味、公開関与みたいな話になってるんですけど。

○土井部会長　今、おっしゃった場とぬくもりが一番大切だし、求めているものっていうのは分かるんですが、それが今すぐに用意できないわけですよ。

○玄講師　はい。

○土井部会長　そのときに、今、こちらから発信するとすれば、どういう情報が今一番必要とされていると思いますか。例えば、金子さんが聞きたいことは、そこじゃないかなと思うんですけどね。

○金子委員　そうですね、何か。

○土井部会長　何を発信すればいいんだらうってことですよね。

○金子委員　そうですね。

○玄講師　いや、端的に言っていいですか、うちに来ればいい。実際、うちやっていますから、毎日。

○土井部会長　こういうところあるよっていう情報が。

○玄講師　そうです。それだけでいいんです。じゃないと、広場に何百人も子どもはいないんです。30～50人なんです。そこに浴線も入れて。それが入れ替わるんです、どんどん。入れ替わって行って、進化よりも劣化していくけども、絶えず常時おる子はそんな子



どもたちですよ。30人前後は絶えず塊でいます。でも入れ替わってるんですよ。ということは、そっから出た子は皆、働いていますよね。働く言うたって、夜の仕事とか、パパ活とかでみんなやってるから、広場にたむろする時間もない。いいのか悪いのかは別にして。

○金子委員 例えばこんな居場所があるよっていうことであれば、業界行政団体の SMAJ としてもやっておりますが、SNS とかでもできるところがきっとあるのかなというふうにも思っております。

○玄講師 でも、悩ましい、悩ましい問題ですよ。うちはアップアップですから、あまりにも来られても。

○金子委員 夜間の問題は、そこをどのように対処していますか。

○玄講師 逆に、皆さん手伝いに来てくださって。

○金子委員 ええ、ですよ。

○玄講師 それこそ1部屋貸してくださいということですよ。今でも満員御礼を、今日みたいに、ほら、最後の答えが今速攻で言うたら。うちしかおれへんから、言わざるを得ない。はっきり言って。

○土井部会長 来ていただいても、要するに、場所がないので、まず場所の確保をということですね。

○玄講師 今のところは大丈夫です。今のところは大丈夫ですし、広場の子言うても30～50人ですよ。その他の間に来て全然大丈夫です。でも、目指してる子に関しては、来いと言われへんから、逆に歌舞伎町に来るなってぐらい言いますよね。あまりにも親御さんが理解してへんから。ちょっとうちの子は東京へ遊びに行きたいって、うち、ここにおったって。あまりにも情報格差があり過ぎて、だから御両親に一遍おいでよとぐらい言いますよ。来てびっくりですよ。いや、ここにいたってというのが。基本的に大人がもっと理解しないと、今の現状を。つぶさに。

○金子委員 もう一つだけ。

○玄講師 はい。

○金子委員 すみません、ちなみに、もう一つちょっと付随した質問になるのですが、仮に、その子たちが何か自分がそこから脱するために何かしたいと思っているとして、その人に何ができるのでしょうか。私、前に少し水商売をやっている男性と話をしたこと

があって、その方は多分 20 代後半でまだ若いし、できることもきっとあるんじゃないかといったようなことを話したときに、いや俺に他に何ができるのって言われたんです。確かに、その気持ちはとても分かる。今までずっとそれしかやってない、水商売しかやってなくて、資格もない、学校行ってないって言われて、そのようなときにどのように次のステップにおつなぎしたらいいのでしょうか。

○玄講師　まず、未成年の場合は、できることは親元に帰る以外ないと。未成年ね、あくまでも 18 歳未満は。18 歳を過ぎたら、そうやってパパ活じゃないけども、非合法の仕事をしてる場合は、早くそこから抜け出るように。その原因は何、借金問題ありますよね、ホストに入れ上げたいという借金もあれば、自立したい言った時は、やっぱり借金の整理から。現実です。それと、スキルつけるために商業訓練所やけど、それ以前にまず借金の処理と、まず、最低賃金の稼ぎ方、何もないからスキルが。でも、あるんですよ。

私、歌舞伎町で「駆け込み餃子」ってやってます。24 時間。そこは時給 1,000 円、1,200 円出ます。だから 8 時間働いたら、もう 1 万円でもなると。まずそこからでも 20 日働けば 20 万円になるやろと。店員から始まるけど、中でギョーザも焼くから。そういう道もあるんです。歌舞伎町って、逆に今、人手不足やから、ただ、住む場所がない。住所がない。当然、口座も携帯もない、ないない尽くしの中で第一歩言うたら、まず、住民票どこにあるかから始まりますよ。住民票がなかったら口座も開かれへん、部屋も借りられへん。そんなん言ってる間もないから、取りあえずうちの知り合いのところで聞きます。果たして、その子が誰かを本人確認しないと。基本、そういうところから入るんですね。皆、逃げてきてる子が多いから、借金とかになって。そこをたどれば、しっかり所在が分かって、その後は、金銭、借金の問題は弁護士さんのところに委託すればちゃんと処理できて、住む場所はいっとき何もないから、ちょっと行政に世話になって、半年間ほど生活保護で部屋も借りて、半年たってる間に力ついたら、はい終わっていうのもあります。実例と言うと。ただし、18 歳以上じゃないと、18 歳未満は無理です。やっぱり親の了解じゃないよね、法律上の問題もあるし。雇う側も大変です。まず、そこんところがきちっと、そこはしっかりと表出てやって話しますよね。現実的な話で言うたら。

ただ、両親が、いやたまにこの近くでしたら、うちとこ遊びに来るって言うて、16 の子で、両親の了解の下で来たら、もう 9 時には帰してる事例もあります。ちょっとガス抜きですよ。

○土井部会長 よろしいでしょうか。

○玄講師 はい。

○土井部会長 審議の時間、決まってるので、あともう1点ぐらいありましたら、それでいったん質疑応答は締めにしたいと思うんですが、よろしいでしょうか。

山本先生ありますか？

○山本委員 ありがとうございます。特にございません。今の御議論で勉強させていただきました。

○土井部会長 ありがとうございます。他はよろしいですか。

じゃ、そうしましたら、今お話しいただきましたので、それを受けまして、これから意見交換に入りたいと思います。まずは、玄さん、拍手でお礼を申し上げたいと思います。ありがとうございました。（拍手）

この後も、玄様、御同席くださるということなので、一緒にお聞きいただきながら意見交換を進めたいと思います。

この会合自体が全部で今のところ5回を想定しています。前回1回使っていて、あと今日を入れて4回なんですね。最後に1回は、取りまとめをしないといけないので、そうすると、実質の審議が3回なんです。それで、前回お話があったように、一つは青少年自身の問題があり、もう一つは、今日のお話伺って、変わりますけれども、加害者になってしまう大人の側の問題と、それから、場所、飲食店とかホテルとか、場所の問題と、この三つが大きい柱になるのかなってというのが前回の話でした。

第一の青少年の問題につきましては、今、実際に歌舞伎町に来ている子どもたちをどう救うのかという問題と、その予備軍というか、興味を持ってこれから来るかもしれない子どもたちにどう接するのかと、二つの問題があると思います。

第二と第三の柱、大人の問題と空間の問題については、これは一緒にできると思うので、第4回目に回します。次回は、そういう青少年の予備軍という言葉悪いですけど、どうやって予防的にメッセージを出していくのかという問題を扱えればと思っています。ですので、今回は、実際に今日お話伺いました、歌舞伎町にいる子どもたちに対してどういう支援ができるのだろうというところについて議論したいと思います。ここについて私たちが答申を書かないといけないので、そこについての御意見を承りたいと思っています。

では、早速ですが、御意見ある方、自由に御発言いただければと思いますけれども、いかがでしょうか。

今お話があったように、これ、つながっているのですよ、全部ね。だから、子どもの問題も、それから大人の問題も、これ回っているわけだし、つながっている。それは場所の問題もそうです。ただ、取りあえず、一応、今、便宜的に分けておくとして、今歌舞伎町にいる子どもたちに何ができるのだろうか。私たちはどういうことを都に答申できるのだろうか、御意見をいただければというふうに思います。

○小西委員　では、よろしいでしょうか。

○土井部会長　お願いします。

○小西委員　久しぶりに玄様のお話を直接、お伺いしましたが、やはり歌舞伎町にもう20年以上の長きにわたりご活動されている中で、実感として色々と感じておられることを聞くことができ、非常に勉強になりました。

切実な様々な問題があるという子どもたちの状況について、今日のお話の中で学ぶことができたのは、今日のこの第2回の専門部会の非常に大きな成果だったのではないかなと思います。

その子どもたちについて、やはり、お話しの中でも強調されていたのが、やはり場所と、ぬくもりでした。それを求めて地方からもやってきたりもするし、また、近隣地域からも来たりしており、やはり歌舞伎町の「ト一横」が彼らの第3の「居場所」にもなっている。ただ、そういう場所では、お話にもあったような、子供たちを搾取の対象とするような大人も存在しており、そのような中でより安全な居場所を彼らに提供したいと。そこで、駆け込み寺では、こどもカフェを昨年8月28日から開設し、活動をされてこられたということで、これは本当に大きな意味があると思います。そのような安全な場所で、子どもたちが、やはり食事も提供されるというのはとても意味があると思います。前回は最後の方でお話しをさせていただきましたけれども、やはり食事というのは子どもたちが集まっていく上で、また、子どもが心を開いて話をしていく上で、すごく大きいのではないかなと感じています。そうしたことは、更生保護等の領域も含めて、他の様々な活動を見ていく中でも、実感として感じてきたところです。ですので、駆け込み寺の取組等も参考にしながら、やはり相談所の設置とか、トラブルを抱えた青少年が安心できる「居場所」というものを、今日具体的な御提案があった、ハイジアの中にヤマ

ノさんが以前されていたお店の広い場所を活用するなどして、今後、都としても検討してはいかがでしょうか。

また、やはり歌舞伎町で実際に活動されている駆け込み寺もそうですし、あるいは、区役所、地主の方、この4月に開業する東急の歌舞伎町タワー等、地元を含めた理解・連携が、街自体を安全・安心にしていく上でも重要であると今日考えました。子どもたちの支援に際しても、やはりそうした連携をしつつ、支援していくことが重要です。企業に関しても、最近のCSR等と言われる中、やはり、例えば食事の提供に関する支援に係る協力をしてもらうなど、何か協力関係を構築しつつ、子どもたちが安心して過ごせる場所を作ることが大事なのではないかと思ったところです。取りあえず以上です。

○土井部会長 ありがとうございます。やはり場所ですよ。そして、その際に、必須の要因として、今日おっしゃった、やはり食事ですよ。食事の提供が大きいですよ。それで、食事をしながら話せる相手がいるというのは、まさに彼らが求めている「ぬくもり」ですよ。

○杉浦委員 よろしいでしょうか。

○土井部会長 はい、お願いします。

○杉浦委員 あまりにも時間がないので、ちょっとどうしていいのかなと思うのですが、彼らのなくなった「場所」が何なのか、どのようなぬくもりがないのか、どこでどういう状況で家庭が駄目になったのか、学校がうまくいかないのか、自分の病気とか、何か、能力等に問題があるのかって、本当は様々な要因があって、その結果、自分の場をなくしてしまったりとか、あったはずのぬくもりがなくなったりとかという事象が生じるはず。また、今度、受け取る行政側も、今、「居場所」という刹那の場所なのだけでも、そこでその子たちに足りなかったものに依るような受け止めが本当はできなければいけないのではないかという気がします。そうしたことをマトリクスみたいに描き、何が足らなかったのか、だから、受け入れる側もそれに依って何をする必要があるのかということを整理する必要があるのでは。例えば、相談を受けるにしても、誰にでも相談できるならば、それはいいのだけれども、例えば切り口として持たなければならない相談の内容ってどのようなものなのかとか、話せる大人ってどういう人たちなのかって、もう少し本当は緻密に考えていかなければいけないのかなって気がします。ただ、あまりにも時間がないので、今、食べ物があって人と接することができる形の「場所」、「居場所」とい

う話が出ていますが、とても刹那的な解決方法だという気がして、すごくジレンマがある、そうしたことを申し上げたいです。

○土井部会長 弁護士会でもカリヨンの家とかやってらっしゃって、シェルター持っているから、よく御存じだと思うのですよね。だから、その食事をとれる場所について、刹那的とおっしゃったけれども、やはりこれ対症療法ですよね。最後に先ほどおっしゃったように、オーバードーズとか抱えているということは、そういう問題を抱えているから来ているわけだから、その問題をどうするかというのが本来の問題であり、根治しないといけない。ただ、もちろん、対症療法については刹那なのけれども、何かこれ以上彼らにはまらないために、少し押しとどめるダムじゃないけれど、そういう場所が必要だなということですよね。だから、当然、これで終わりではなく、そこからどうやって背後の問題に迫っていくのかっていうことはもちろん大事だと思いますよね。

○金子委員 すいません。

○土井部会長 はい、お願いします。

○金子委員 やはり、まずは本人にどうやって手を差し伸べるのかではないでしょうか。本人に何ができるかっていうのを考えますと、まさに、SNSは若い子たちが見てくれているので、このSNSに、例えば、こういう場所があるよという情報を流してあげる。あるいは、ここで食事できるよ、食料をもらえるよっていう情報を流してあげるっていうことをするのは、これはできるし、実際に過去にやって、結構効果が上がってきたところがあります。というのは、昨年、これは弊社、TikTokの話にはなっていますが、これは未成年に限らず、ホームレス状態にある方々に炊き出しで食事を提供しているNPOがいて、そのNPOがTikTok上で、ここで炊き出しやっていると情報を流したんですね。そしたら、そこにもう何倍もの方が実際に炊き出しに、食事をしに来てくださって、そうやって、まずは来てくれる状態を作るためのメッセージをSNS等で流すのが大切。来てくれたら、背景にある原因にたどり着くための入り口の会話のスタートができることとなるかもしれないので、そこでまたお話を聞くと。また、他のNPOもたくさん今、多様なSNSで情報を発信してくださっているんで、他の、例えば、じゃ、各種要因ですね。実は、いじめがあってというのであれば、そのいじめを受けている子どもの支援をしているNPOがいるので、そのNPOにもまたその情報発信をしていただく。そうすると、子どもたちが見られるツールであれば、あ、こんなところがあるのだ、じゃ、次は、いじめのどこ

ろでも相談してみたいとなる。また、その入り口が炊き出し、あるいは場所をしてきているところなのだということに来てくれる。そこで、本当はもう一步踏み込んで、例えば、こういう SNS に関係する企業や、NPO が横でも連携して、炊き出しをしてくれる場所に、いじめとか家庭問題を解決してくださる皆さんも一緒来てもらい、そこで何か食事をしながら相談もできたりするという連携ができれば、それはまたそれもよいのかなと思います。本当に最初の一步ではありますが、そういう何か横の連携でできるところも、情報を出しつつ、できれば少し立体的な取り組みができるのかもしれないと思いました。

○土井部会長　今おっしゃった情報の発信は次回にも関わってくると思います。そういう情報、場所についての情報をどうやって周知するかという問題と、それから、そうやってせっかくやってきてくれても、そこが期待外れだともう来てくれないから、そこがどれだけ安心できるようにするか、頼りになる人を配置できるか、こちらが用意できるかというところですよ。そういう連携の場が必要だっていうことですよね。

○金子委員　まさに、例えば東京都様なのか、様々な NPO の方がいらっしゃるの、それを取りまとめる形で、一度に連携して情報発信をするようなスキームを作るというのもあり得るのかなと思いました。

○杉浦委員　すごくいいと思いました。今のお話、すごくいい。だから、場所に一応来てもらって、そこで聞く耳を持つ人をどうやって配置するかっていうことですよね。

○金子委員　NPO もそれぞれが専門をお持ちですし、あるいは、NPO に限らずともそうだと思います。

○土井部会長　そこにつなげていくためには、やはりそれを何回か繰り返していかないとイケませんね。なかなかすぐそんな語れるわけではないと思うので。何回か来てもらって話す中でどこを紹介したらいいかということがだんだん分かっていくわけだから、そうすると、やはりそういうある程度、常設できるような場所が本来はあった方がいいってことですよね。

○金子委員　そうですね。あるいは、炊き出しや相談の場所が単発だったとして、定期的に行っていると、そして、定期的に SNS にその情報が流れてくる。1 カ月 1 回やってますなどというように。そうすれば、単発ではあっても、ある程度、線にしていけるかもしれない。そうした情報がちゃんと本人に毎回届いていれば、何かその情報を基に来てくれるかもしれない。

○土井部会長 春野さん、どうぞ。

○春野委員 すいません。今お話聞きし、十分まとまってないんですが、要するに、やはり歌舞伎町の街というか、街からも理解してもらおうという話がさきほどありましたが、小西先生おっしゃったような協力関係というのはすごく難しく、やはり迷惑な存在なので、そういう点で協力しろと言っても、実際問題どんなふうになるかっていうのはあると思うんですね。でも、やっぱりそのところで、ただ排除するというふうなことにならないような何かが必要かなと思います。それと、玄さんたちがやっているような活動、ぬくもりの話もそうですし、やっぱり人の問題ですよ、どう考えても。お金の問題で、これ雇ったって、それでは駄目だっていうのは、私も NPO をやっていて、すごくそれは感じています。心が通うものっていうのを作るってすごく難しく、どんなふうにするんだらうかっていうのはありますけど、やっぱりそういう玄さんのところが中心になるのかもしれないし、ちょっと分からないのですが、金子さんがおっしゃったようなところを、どこかがコーディネートしていくってことはやっぱり必要だなと思いました。

昨日、たまたま昔、夜の街にたむろしてた女の子とメールで話していて、そこにどういう子がいるのかっていう話を長くやり取りしていました。そのやりとりの最後だけを読むと、夜の街には、やっぱりいろいろ「居場所」がない子たちが緊張した自分たちの暮らしから開放されたくてそこに行くっていうふうなことを言っていました。そして、そこで知り合った子たちが、何か結託するっていうか、本当に仲良くなって、つらいことを乗り越えていけるような関係、悪いことをしていても、そういうのができて、すごくそこが「居場所」になるんだと言っていました。「夜の街は楽しいことだけしていればいい、誰にも怒られず、プレッシャーをかけられずいられる。だから何も怖くない、何も心配することはない。」と言っていました。その子は、17 歳ぐらいで遊んでいた子なんですけど、16、17 の時に、そういう場所に行っている子たちに、それは悪いことだよっていくら言っても駄目だし、じゃあ相談所があれば行くかって言うと、なかなかそういうところでもないなと思います。ただ、何かさっきおっしゃったような、何か困ったことがあれば行かなくちゃいけない場があればいいなっていうふうなのは思ったんですね。

それと、根本的な話になっちゃうけれども、やっぱり「居場所」がなくて、そこに行かざるを得ない、そこに行けば生きていけるっていう子たちなので、その「居場所」がないという問題って、何か少し、私たちはやっておきたいです。玄さんのところも未成年だっ



たら親元に帰すっておっしゃっていたのですが、親元も、自分が子どもにとっても居心地の悪いお家なんだとは気付いてなくて、どうして出ていっちゃうのとか、お母さん、こんな一生懸命母子家庭で頑張っているのに何が嫌なのと思っている人もいます。そういうことって、やっぱり親も、それから学校も気付いてもらわなくちゃいけないので、こういう実態っていうのは、もうちょっときちんと頻繁に伝える努力が必要であると思いました。そこが「居場所」になって、少しでも食い止められればいいわけだし、それから、家を出ていっちゃって帰ってくる時も、そのときには、学校でも地域でもお家でも、出ていくときとちょっと変わっているというか、彼らの気持ちに寄り添えるようになっていくっていうことも必要なので、何かそうしたことについても、すごく遠回しのようにだけでも、何とか努力をしてほしいなって思います。そういう意味では、本当に親の会に相談に来て、親も変わるんですね。自分の問題だということに気付いていくところがあります。ああいう変な風俗街があるからいけないんだと、ホストをとにかくやっつけてほしいみたいなことから、やっぱり自分の問題だったんだっていう気付きがあると、やっぱり子どもは帰ってくるんですね。そういうことって時間かかるけど、何か遠回しでもやって行ってほしいなと思います。

○土井部会長 山本さん、はい、どうぞ。

○山本委員 どうも、すいません、ありがとうございます。2点ほど、ちょっとコメントというか、そういったものになると思うんですけども、お伝えします。1点目は、メタバースとか最近はそういったテクノロジーが普及しているところだと思いますので、何かバーチャル「ト一横」っていうんですかね、ある程度管理されたような、そういった空間を作っていくということもあるのかなというふうに思いました。ただ、他方で、そういったバーチャル的な空間、特にメタバースについてはデバイスがないといけないわけですので、恐らくそういったものを持っていない若い人たちは、なかなかそこに行けないっていうことがあるのかなと思いました。

だから、その一歩手前のところで、例えばゲームで「どうぶつの森」とか、そういったものもあるわけなんですけれども、そういった空間を作って、バーチャルの空間の中に駆け込み寺のようなところがあったりとか、あるいは、占い所のようなものであったりとか、いろいろそうした、若い人たちが関心持つようなコーナーを設けていくということも一つあるのかなと思います。ですので、リアルな空間を、いわばバーチャル上に移し

ていくと、代替的な空間としてバーチャルといったようなものを用意していくということもあるのかなと思いました。

もう一つは、やはり、若い人たちの感覚、自分が十代のときを思い出すと、行政的な臭いのするものというか、あるいは NPO 的な臭いのするものっていうのは、何かやはり格好よくないというのですかね、やっぱりそこに何か距離を感じてしまうということもあるんじゃないかなというふうに感じました。やっぱり、彼らからするとキラキラしたものですとか、多少危ういものですとか、やっぱりそういったものにクールさを感じるというところもあるのかなと。そういう意味では、単純に、ある意味で「こういう場所あるよ」とか、あるいは、そういう NPO 的なものを用意しても、なかなかそっちの方面に足を一步踏み入れようとしている人からすると、寄り付かないというようなこともあるのかなと思います。ですから、そういった人たちどのように働き掛けるかというのは非常に重要なところでもあるのかなと伺っていて思いました。

ですので、TikTok の話がありましたけれども、例えばそういったティックトッカーですとか、そういう人たちに、例えばクリエイターの教育をしてあげるよと。あげるよというのはちょっとあれですけど、クリエイター教育みたいな場をそういう人たちに設けるなど、そういう憧れの存在みたいなものを配置していくとか、そういったことも考えられるのかなと思いました。インフルエンサー、ユーチューバー、V チューバー等様々あると思いますけれども、そういう人たちがそうなるためにどういうステップを踏むといいんだよということを教えていくような、行政的な臭いのしない空間をどういうふうに設定できるかっていうことが重要であると今伺っていて思ったという次第です。

すいません、以上です。ありがとうございます。

○土井部会長 ありがとうございます。後半の話は、私も全く同感です。これは一つポイントかなと思います。

前半のネット等の「居場所」の問題については、今日、せっかく玄さん、いらっしゃっているんで、お伺いしたいのですがよろしいですか。

○玄講師 はい。歌舞伎町には、いわゆる V チューバーもユーチューバーも年中来ています。毎日発信しています。あちこちのメディアを通じて。

だから、子どもらにとったら、そういう情報は傍受するけど、自らが発信するいうことはまずない。自分たちのグループでツイートをするとか、こういうような話があったけど

と、裏ツイートをみんなしますけども。結局、Wi-Fi がつなぐところにしかたむろしないから、うちここはフリーで開放してるんやけども。それと電源。だから、スキルとかネットっていうよりも、もうリアルな人間求めにくるから、最終的に。やっぱりそこにやっぱりぬくもりなんですよね。ネット依存の方は、まだ歌舞伎町には出てこないんですよね。ネットも SNS を駆使して、自分たちのコアな塊だけを求める。結局、人対人になってくるんです。

ある意味、使い慣れ過ぎているから、そういうのはあまり見ないし、携帯持ってるけども Wi-Fi しかつながらん、LINE しかつながらないっていうような、本当に何かいびつな、生まれながらにこの子らは携帯持ってますから。ある意味すごくアナログなんですよね、実態としたら。あったかいご飯を食べるいうだけでも来ますってというのが、今の実情ですよね。

○土井部会長 ありがとうございます。恐らく、メタバースのようなネットの「居場所」ってというのは、多分、次回にかかってくるのかなって感じがしますよね。今、来ていない子どもたちが求める、歌舞伎町でない場所の一つとしてメタバースもあるかもしれないですね。

○山本委員 すいません、山本です。

○土井部会長 はい、お願いします。

○山本委員 よろしいでしょうか。今、大変示唆に富むようなコメントをいただいて、なるほどなと思いました。特に、Wi-Fi がつながらないと話にならないというのは、全くそのとおりだなと思いましたし、本質的に人と人のぬくもりを求めるというのも、私もそうですし、きっとそうなんだろうなと思って伺っておりました。

もう一つ伺いたいのですが、さっきのような空間、つまり、ツイッターとかユーチューブとか既存のプラットフォームというのはあると思います。ただ、そういった子どもたちが集えるような、玄さんが運営されているような場所がバーチャル上あったりとか、あるいは、気軽にそういうところに入っていけたりする空間というのは現状あるんでしょうか。私が勉強不足で存じ上げないだけなんですけれども、そういったものが既に存在していて、それがなかなかやはり成果・効果を上げないということなのかどうか、教えていただければと思いました。すいません、以上です。

○土井部会長 そこは玄さんや金子さんがご存じかもしれないですけど、どちらかお伺い

できれば思います。

○玄講師 端的に、歌舞伎町中が Wi-Fi につながったら可能性あるでしょうね。今はブチブチ切れるし、地下潜ったらつながれへんし、携帯の電源も、ほら絶えず使っているから、もう短時間給電しかできない。若いのに、もう割れた画面ですから。そんなんでは、本当に LINE とかの通信手段しかない。そこで、しっかり見られるようなきれいな画面ではないけど、漫画喫茶のような費用がかかるところは行かない。テレビはほとんど見ないです。シェルターに行っても、モニター的なものは一切ないから、割れた画面をいつもなぞって、修理もしないからそのまんまです。

だから、確かに、そういうものがあれば、また違うスタンスの子や、歌舞伎町を目指してる子たちは、ネットから入ってくるから、あればそこでせき止められる部分もあるかもしれませんよね。すごくある意味、有効な手段ですよ。すごい案だと思います。

○山本委員 ありがとうございます。大変よく分かりました。ありがとうございます。

○土井部会長 金子さん、何かありますか。

○金子委員 ちょっと、メタバースについては分からないんであれなんですけれども、ただ、例えば、それこそ、また TikTok で申し訳ありませんが、ただの動画、プラットフォームであったとしても、そこはやっぱり実際の若者たちの声がいっぱいやっぱり出ているっていうのはあります。要は、それをバーチャルと言うかどうかはさておきなんですけど、実際に動画を通じて若者が言いたいことを伝えているものはたくさんあって、今日学校行けなかったとか、うち親がたたいてくるとか、そういう動画もいっぱい実はあります。若者の今思っていることっていうのが、その空間にあるっていう世界は確かにあって、だからこそ、例えば私たちや NPO の方に、そこにある若者の空間に、じゃ、こんな相談窓口あるよとか、NPO がここで炊き出しやっているよとか、そういう情報をそこに入れていくという活動をやってきたところですね。

その結果、やっぱり情報を出せば、実際のリアルな場所ですけど、何倍もの人たちが来てくれることがあるので、今の私の話はオンラインだけで完結していませんけれども、確かにそういう場はあるので、何かやろうと思えばできることはあるんじゃないかなと思います。

○土井部会長 ありがとうございます。もう時間があと 5 分ぐらいしかないのですが、田村さん、すいません。

○田村委員　じゃ、今度はリアルな方で言いますが、先ほどリアルなものを子どもたちが求めているっていう話がありましたが、子どももみんな気持ちを分かってほしいというのがあるかと思います。でも、いろいろな不信感が大人に対しても、友達同士であってもあって、なかなか彼らに信じてもらえないということがあります。また、行政的な臭いがあるとなかなか難しいというのもあると思うんですね。それで、もう既に、例えば、この駆け込み寺さんが信頼関係を築き、子どもたちが来ているので、その炊き出しのときとかに、その隣にちょっとブースを作って、こちらの玄さんが信頼している人が来てるといような信頼関係をつなげないと、いきなりは多分難しいと思うんですね。なので、それも3回置くと。これまでキーワードで3回っていうのがだいぶ出ていましたけど、そのブースのような形で子どもたちの話を聞く。

さっき未成年は家庭に戻すと言っても納得しないと戻らないし、やっぱり十分話を聞いて、そこで説教ではなく、しっかりその気持ちを聞いてっていうのがやっぱり大事だとありましたが、私もそのとおりだと思いますので、何かそういう今ある信頼関係をつないでもらうっていうことが一つできることかなとちょっと思いました。

あと、もう一つ、今回ちょっとマイナスなことがいっぱい出たんですけども、この子どもたちは行動力がありますよね。そして、別な意味で生きる力もあって、そういう良さ、この人たちのいいところ、そういうところにもちょっと視点を当てて、その力を何か活用できないかということもちょっと思ったりもするんです。ストリートダンスが生まれた経緯にもあるように何かは絶対みんな一人一人いいものを持っていると思うので、何かそういうものを知りたいなと思います。それを何か次のステップにできたらっていうようなことを、すいません、ちょっと抽象的ですけど思いました。以上です。

○土井部会長　ありがとうございます。例えば、引きこもっている子なんかは、なかなか援助するのが難しいんですけど、外に出てきてくれる子供は、むしろつながりやすいところはあるわけですよね。だから、それをやはりさっき春野さんおっしゃったように、街にとって迷惑だからそれを排除するのではなくて、せっかく出てきているんだから、それにどうやってこっちから手伸ばしてつながっていくかっていうところは多分ポイントだと思うんですね。それはおっしゃるとおりだというふうに思います。

これは、だから、この会の性格として、前回も一応確認はしましたが、困っていない子もいるわけだから、そういう子も含めて、とにかく迷惑だから排除してしまうっていう

発想ではなくて、困っていない子は困ってないんだから、困っている子が来たときにどうやってそこに助けになれるようなものをこちらが用意できるのかと。そこが、まずこの会が考えるべき点だったと思うので、その確認をしておきたいと思います。

すいません、あともう1～2分しかないので、取りあえず、今出た意見をざっくりまとめさせていただきます。一つは、まずは入り口としての場所が必要であると。そこには一つのポイントは食事かなというところですよ。この場所についての情報をどうやって周知させるのかというところですね。これはネットを駆使して行くと。そこにおいては、多分、インフルエンサーのような存在も非常に有効だろうということですよね。

場所に来てくれた子どもたちに対して、大切なのはそこにどういう大人がいるのかということであり、その大人たちを介してどうやって本来必要な支援へとつなげていけるのかというところも重要です。そのためには、その人たちをコーディネートする、あるいはハブになる組織でもいいと思うんですけども、例えば駆け込み寺さんにハブになっていただいて、そこからこうしていくとか、いろいろ考えられると思います。そういう組織を考えていかないといけないだろうというところが今日出た話かなというように私は理解をしていますが、何か抜け落ちているところありますでしょうか。ざっとはそういう意見ですかね。

さっき、山本先生おっしゃった、例えばメタバースのような問題は、恐らくこれは次回にどうやって今、歌舞伎町に来ていない子をせき止めるのかというときには、これは重要な論点になっていくと思います。この「居場所」としてのネット空間の問題は、これは次回またゆっくりと議論させていただければというふうに思っています。そんなところでよろしいでしょうか。

では、いったんここで、時間が来ていますので締めさせていただきます、事務局にお返しをします。

○都民安全課長 事務連絡でございます。今後の会議の予定でございますが、次回、第3回の専門部会につきまして、また日程調整をさせていただき、調整がつき次第ご連絡させていただきます。

今後は、専門部会における検討を進めていただきまして、拡大専門部会で答申のまとめについてご審議いただくというところを考えております。その後、第2回の総会にて答申を目指していく流れでございますのでよろしくお願いいたします。事務局からは以

上でございます。

○土井部会長　はい、では、これでいったん終わりにさせていただきたいと思います。お疲れさまでした。また、次回よろしく願いいたします。

○一同　ありがとうございました。